

# リサーチ・アドミニストレーターを 育成・確保するシステムの整備



## 金沢大学



# グローバル化に対応する大学改革の強化推進

教育・研究・国際の「三本の矢」による一体的組織改革

KANAZAWA UNIVERSITY  
ACTION PLAN 2010(中村プラン)

【グローバルに生きる金沢大学】

- ・国際通用性のある人材育成
- ・新たな知の創成

国際



国際機構

- ・国際戦略の策定
  - ・留学生受入れ支援の集約化と機能強化(ワンストップサービス)
  - ・留学生・派遣学生支援の強化(事前教育・語学教育)
  - ・日本語教育
- 外国人等の教員への登用拡大, 双方向の国際交流拡大

先端研究を通じた国際的  
教育研究拠点形成

研究



先端科学・イノベーション推進機構

- ・本学に優位性のある研究プログラムの重点支援と  
基礎研究から産学連携まで一貫した研究支援体制を構築
  - ・URAの積極的活用による研究活動の活性化
- 世界的な教育研究拠点の形成, 次世代を担う若手研究者の育成, 社会のニーズを踏まえた研究成果の効果的活用

「東アジアの知の拠点」  
～世界から金沢へ～  
～金沢から世界へ～



世界に雄飛する人材の育成

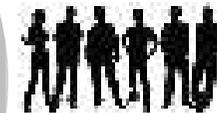
教育



グローバル人材育成推進機構

学長直轄の教育特区機構として, 学士課程から博士課程まで各学域, 各研究科の枠を超えた全学を挙げたグローバル人材の育成・輩出

→国際的な教育の質保証, 新研究科設置



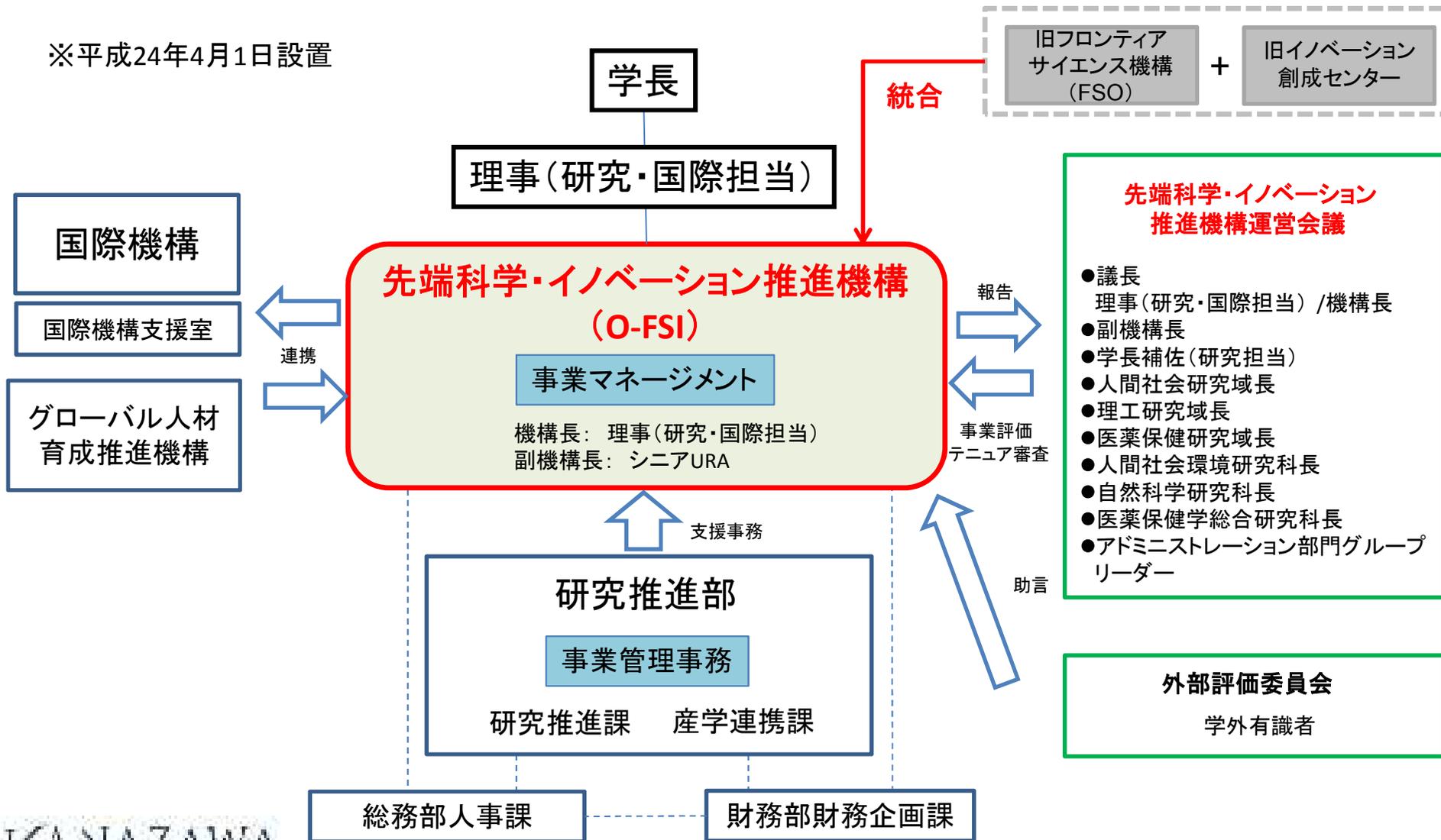
連携

- ・世界で通用する教育研究に資する国際機能強化のための抜本的改革
- ・既存の枠組みを超えた取り組みによる, 大学運営の効率化・高度化

# 研究戦略・推進支援と産学官連携支援を融合した新組織

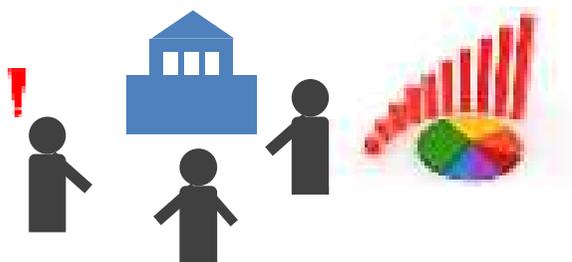
一部局として位置づけられ、人件費を含めて年間約1億円の予算が措置されている。  
また、パーマネントの研究支援専門職教員用ポストも保有している(教授2+准教授1+助教1=合計4)。

※平成24年4月1日設置

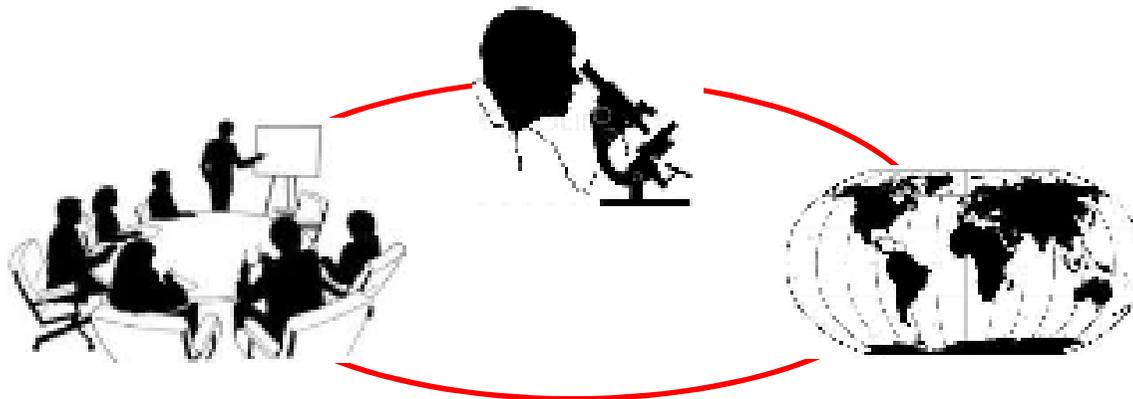


# 金沢大学URA活動の特徴

- 研究戦略立案の支援  
(大学改革にも関わる。研究力分析Institutional Researchの強化)



- 研究・産学連携・国際連携・大学院教育を一体的に支援  
(支援案件の壁がない→学内の情報・課題がURAに集約)



旧 フロンティアサイエンス機構  
研究推進担当URA 4名

旧 イノベーション創成センター  
産学連携・知的財産管理担当URA 7名

統合 +8名のURAを新たに採用

新組織

H24.4.1設置

## 先端科学・イノベーション推進機構

研究部門(重点研究プログラム等)

アドミニストレーション部門

\* 主担当・副担当により、各グループを兼任

URA 19名 (H25.3.31現在)

### 研究戦略・ 企画調整グループ

- 研究戦略・国際戦略  
産学官連携戦略策定のための情報収集・調査・分析・IR
- 戦略の企画立案・調整
- 複合・融合型大型教育  
研究教育プログラム支援  
(教育・研究・産学連携)
- 部局戦略機能強化・支援

### 研究推進グループ

- 科研費支援
- 学内重点研究推進
- 研究グループ申請  
外部資金(研究・産学)
- 若手研究者育成

### プログラム コーディネート グループ

- 重点研究・教育研究  
プログラムの支援
- 研究成果のPR
- イノベーション教育研究  
活動支援
- 産業育成連携講座支援
- 各部局支援

### 産学官連携・ 知財推進グループ

- 共同研究・受託研究推進
- 知的財産戦略・管理
- 技術移転
- 起業化支援
- リスクマネージメント
- インキュベーション施設  
拡充, 企業研究者受入れ

### 地域イノベーション グループ

- 地方公共団体との連携  
強化に向けた情報収集  
や委託業務等の推進活  
動地域イノベーションに  
係る基盤づくり推進
- 地域イノベーション創出  
に係わる基盤(仕組み)  
づくり
- 地域イノベーション創出  
に係わる個別事業の提  
案と実行

基礎研究

応用研究

研究推進・知的財産管理・産学官連携を一体的・戦略的に実施するシステム改革

産学官連携

# 金沢大学URAの担当内訳

H25. 3.31までのデータ(進捗状況評価報告書より)

(重複あり、延べ人数)

グループ名	主担当	副担当
研究戦略・企画調整グループ	シニアURA 2名 URA 4名 (3名)	URA 1名 (1名)
研究推進グループ	シニアURA 1名 (1名) URA 4名 (3名)	シニアURA 1名 URA 3名 (3名)
プログラムコーディネートグループ	シニアURA 1名 URA 4名 (4名)	シニアURA 1名 URA 8名 (4名)
産学官連携・知財推進グループ	シニアURA 1名 URA 2名	シニアURA 1名 URA 2名 (2名)
地域イノベーショングループ	シニアURA 1名 URA 2名	URA 3名 (1名)

赤字は補助事業URAの人数(内数)

	シニアURA	URA	計
全て専任URA	1名	8名	9名
	5名	5名	10名

計19名

# 金沢大学URAによる研究支援状況

平成24年度

28事業, 159件支援

## 主な支援内容

- 科研費
- 博士課程教育リーディングプログラム
- テニュア・トラック普及定着事業(機関申請型)
- 国立大学改革強化推進事業
- 卓越した大学院拠点形成支援補助金
- 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム
- 地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業 等

URAの必要性／重要性はこれから高まるであろう。私自身、その恩恵を受けて来ており、その存在価値を理解している。新たな専門職員と位置づけ、ポスドク等の研究経験者に対して特別な教育(研修)を実施して養成すべきである。

シニア研究者の声

平成25年度

6月現在

- 学術振興会特別研究員PD/DC
  - A-STEP
  - 科研費(研究活動スタート支援)
  - 戦略的創造研究推進事業
- CREST  
さきがけ  
ALCA

専門性の高いURAを配置することに賛成します。以前申請書を作成しレビューをしてもらいましたが、本当に助かりました。自分の研究分野と適度に離れつつも、専門知識のある方に客観的な意見を言ってもらえるのは、勉強にもなりました。

若手研究者の声

## 金沢大学におけるURAの研究支援業務フロー



## URAの能力開発プログラム/調査

### ○ アメリカU R A 職能団体での能力開発方法の調査

- 平成23年10月 SRA Annual Meeting参加
- 11月 NCURA Annual Meeting 参加
- 平成24年10月 SRA Annual Meeting参加
- 11月 NCURA Annual Meeting 参加

国際ポスター賞受賞



H23.10 SRA International

### ○ 戦略思考力強化研修・定量分析力強化研修（グロービス） 平成24年2月-3月

### ○ 東京農工大学との海外共同研修

平成24年3月 SRA International (Stanford, US)



H24.3 海外共同研修

### ○ ドイツ・イギリスリサーチマネージャー調査

東京大学・東京農工大学・早稲田大学合同

平成25年2月 イギリス・シェフィールド大学, ドイツ・ハイデルベルグ大学



H25.2 イギリス・シェフィールド大学

## 金沢大学 URA学内認定研修の実施

### スタッフ能力開発プログラム「金沢大学Basics」

- ・ 対象をURAに限定せず、全教職員に門戸を広げた。
- ・ 平成24年度は全23回の講義を実施し、延べ658名が参加した。
- ・ レポート提出により、認定証を授与した。



認定証



講義の様子

平成25年度からは、Advancedコースを追加して実施予定である。

URA業務 領域/スキル領域	Basics	Advanced (案)	
	Lecture	Lecture (コア+コンセンサス、スキル等)	Workshop (スキル応用・実用)
企画立案 ・ 戦略的経営プロ ジェクト企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学運営の現状</li> <li>・ 経営・研究・国際戦略</li> <li>・ 国の大学改革の経緯</li> <li>・ 研究開発戦略</li> <li>・ 研究戦略立案のシナジー</li> </ul>	<b>戦略的企画考査</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標設定 (国の方向性、大学の理解)</li> <li>2. 現状の分析 (SWOT分析)</li> <li>3. 解決策の抽出</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究センター企画立案および実施</li> <li>・ 自身自身の能力、大学の経営研究ク ラーク形成のための研究センター企画立案</li> <li>・ 研究開発の企画・URAと、異分野の連携</li> <li>・ 企画立案</li> </ul>
運営 ・ 経営計画・中期マ ンifesto ・ 資源マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学運営システム</li> <li>・ 大学経営と経営研究</li> <li>・ 地域と大学</li> <li>・ 経営マネジメント</li> <li>・ 財務経営管理戦略</li> </ul>	<b>プロジェクトマネジメント</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ターゲット設定</li> <li>2. 現状分析</li> <li>3. マネジメントサイクルの確立</li> </ol> <b>コンプライアンス対応</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンプライアンスの位置付け</li> <li>2. 解決方法の分類</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の業務管理</li> <li>・ Road/Tracker/Resource管理ソフト利用</li> <li>・ コンプライアンス対応ケーススタディ</li> <li>・ 具体的なコンプライアンス対応の事例</li> <li>・ 業務改善のためのコンプライアンス対応</li> </ul>
研究推進対応 ・ 研究計画・事業化 戦略 ・ 広報戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域インベーション</li> <li>・ コイノベーション</li> <li>・ ブランディング・イ ンフラ</li> <li>・ 研究センター経営戦略</li> <li>・ 研究推進戦略</li> </ul>	<b>コミュニケーション能力</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コーポレートコミュニケーション戦略</li> <li>2. コミュニケーションの目標設定</li> <li>3. 各研究分野に特化したコミュニケーション戦略</li> </ol> <b>業務管理・活用</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究推進システム活用(管理)戦略立案</li> <li>2. 同僚間、横断分野</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究者、企業等と連携するR&amp;Dの推進</li> <li>・ コース、シナジー効果の活用</li> <li>・ インベーション推進戦略の活用</li> <li>・ 地域、産学連携との連携、学内外の連携</li> <li>・ コーポレート経営戦略の活用</li> <li>・ コーポレート経営戦略の活用</li> </ul>
コンプライアンス対応 ・ 法令遵守 ・ 研究倫理 ・ 社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンプライアンス対応</li> <li>・ 研究倫理</li> <li>・ 社会貢献</li> </ul>	<b>コンプライアンス</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンプライアンス対応の目的</li> <li>2. コンプライアンス対応の現状と今後の展望</li> <li>3. 社会貢献によるコンプライアンス</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンプライアンス対応ケーススタディ</li> <li>・ 実際のケーススタディによる対応方法、および 今後の対応への展開</li> </ul>
人事 ・ URA経理の仕組み ・ 労務管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人事管理の現状</li> </ul>	<b>URA業務の確立</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. URAコア+コンセンサス対応</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究教育・研修プログラム運営</li> <li>・ 上記、各プログラムにおいて、URAが担 当し、業務の運営、運営方法、実務体制の 構築立案、および実施が担当</li> </ul>
研究推進支援業務 ・ 外部資金獲得支援 (Researcher Support)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究推進戦略の構築</li> <li>・ 研究プレゼンテーション</li> <li>・ 申請書作成時の支援</li> </ul>		

H25実施予定

H24実施

## URAのキャリアパス(教員系・専門職員系)

教員系

整備済

URAテニユア・トラック制度

フロンティアサイエンス機構会議  
(機構長, 部局長ら)による審査

審査基準

1. 本学の研究の活性化への貢献度
2. 研究支援に関するマネジメント状況
3. その他(研究支援に関する研究活動)

テニユア・トラック期間 **5年間**

H19.  
5月

H23.  
11月

H24.  
2月

1名 最終審査  
を行った→合格

審査基準  
提示

▲  
最終審査

博士研究員

助教  
(パーマナント)

専門職員系

検討中

他大学におけるURA雇用制度との比較を行い、専門行政職の俸給表をベースとした“第3の職”制度化の検討を機構内で開始している。“第3の職”を導入した先行大学の規程を取り寄せ、理事(総務・人事担当)と相談しながら、本学におけるURAのキャリアパス構築を進めている。必要に応じて事務職ポスト・技術職ポストも利用する。



## URAのネットワーク形成

本学URAが立ち上げ

RA  
Research  
Administration 研究会

### リサーチ・アドミニストレーション研究会

	開催日	場所	主催	参加人数、機関数	内容詳細
第1回	H22/2/5	東京	金沢大	参加人数:48名 機関数:28	WS1:研究推進の部 WS2:産学連携の部
第2回	H22/11/21	東京	金沢大	参加人数:66名 機関数:37	WS1:URA職確立のためには WS2:URAはどう研究推進・産学連携を進めていくか
第3回	H23/12/9	金沢	金沢大	参加人数:94名 機関数:39 (文科省URA事業・H23年度採択5校決定後)	WS1:効果的なスキル向上 WS2:URAにおける産学連携 WS3:URAと大学戦略
第4回	H24/9/4	東京	金沢大・ 農工大	参加人数:203名(登録) 機関数:78(登録) (文科省URA事業・H24年度採択10校決定後)	WS1:研究者ニーズと日本版URAのあるべき姿 WS2:日本版URA人材の育成 WS3:日本版URAの外部ネットワーク形成
第5回	H25/11/18- H25/11/19 (予定)	京都	金沢大・ 京都大・ 農工大・ 他	目標参加人数 200名~300名	プログラム委員会にて検討中



第4回RA研究会

## 事業終了後の構想

- 本学の研究戦略・産学官連携戦略と一体化した研究支援をさらに推進するため、本事業を活用し構築したURAシステムを維持発展させる。

日本における「**研究推進・産学官連携一体型リサーチ・アドミニストレーションモデル**」の構築

- O-FSIの活動実績を踏まえ、必要に応じて事務組織も含めた見直しを行う予定。保有教員ポストおよび外部資金等の自主経費によりURAセンターの規模を維持する。
- 他大学の情報収集を行いながら学内での検討を行い、第3の職設置や昇任等のURAのキャリアパス整備を行う。

例) URA → チーフURA → シニアURA → 学長補佐, URA組織長等